

## 市営地下鉄のサービス向上の取組について

市営地下鉄では、すべてのお客様にとって安全で快適な移動空間を提供するため、サービス向上への様々な取組を進めています。

### 1 キャッシュレス決済の充実

令和6年12月4日から、市営地下鉄の全40駅でクレジットカード等のタッチ決済を活用した乗車サービスの実証実験を開始し、利用件数は増加傾向にあります。また、7年3月12日からは、1日の始発から終電までの間に何回ご乗車いただいても、現行の一日乗車券と同額の740円を請求額の上限とする割引制度を導入しました。

一方で、実際に本サービスをご利用いただいたお客様から、タッチ決済対応改札機の増設を望む声が寄せられています。7年度中に、一部の駅でタッチ決済対応改札機の増設を予定しており、更なる利便性向上につなげてまいります。



タッチ決済専用リーダー

### 2 駅構内におけるベビーケアスペースの整備

6年7月に、センター北駅及び仲町台駅の駅構内に個室型のベビーケアスペースを設置し供用を開始しました。以前からあるあざみ野駅及びセンター南駅の授乳室に加え、子育て中の方々が安心してお子様と一緒に市営地下鉄をご利用いただけるよう整備しました。

7年度は、新たに日吉本町駅に設置する予定で準備を進めています。



外観



内観

### 3 食品ロス削減SDGsロッカーの設置

関内駅構内の「SDGsステーション横浜関内」において、6年1月から食品ロス削減のため、賞味期限内でありながら廃棄されてしまうパンを販売するためのロッカー型自動販売機を設置しています。

横浜市では7年度に、30か所以上の設置を目指しています。交通局も条件を満たす駅に積極的に設置してまいります。



SDGsロッカー

裏面あり

#### 4 駅ホームの段差・隙間縮小

ブルーラインでは、プラットホームと車両床面との段差・隙間縮小を計画的に進めています。

現在、全32駅中15駅の整備が完了しています。7年度は9駅の整備を完了させるとともに、残り8駅の工事に着手し、8年度の全駅完了を目指します。

整備済の乗降口のうち、国土交通省のバリアフリー整備ガイドラインで定めた目安の値（段差3cm、隙間7cm）を満たした乗降口には、ホームドアにサインを掲出しています。

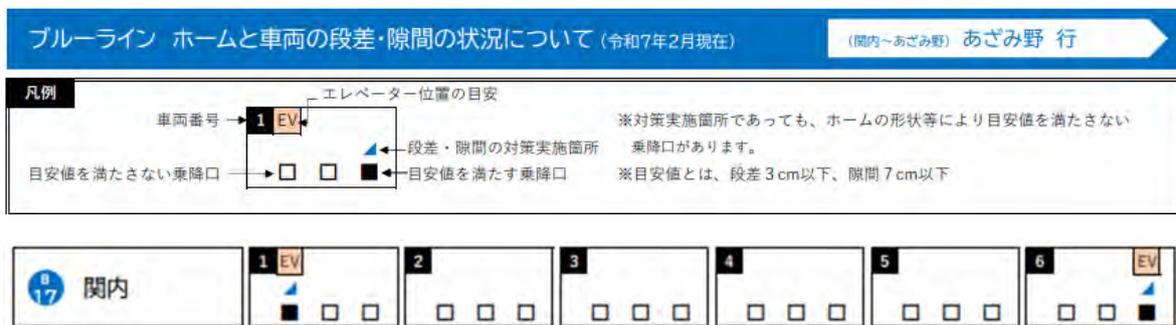
また、交通局ホームページでも各駅の整備状況を案内しています。

なお、グリーンラインについては、開業時からホームと車両床面との段差・隙間が小さくなっています。



ホームドアサイン（関内駅）

#### 交通局ホームページ（関内駅抜粋）



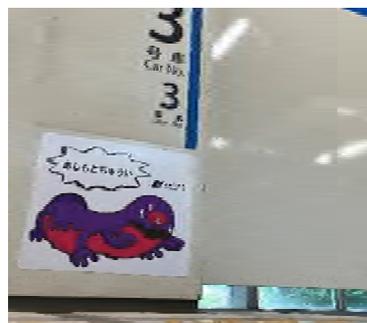
#### 5 「こども隙間転落防止プロジェクト（スキマモリプロジェクト）」の取組

ホームと電車の隙間に小さな子どもが転落するのを未然に防ぐために、JR西日本が大阪市立デザイン教育研究所、大阪公立大学と共同プロジェクトを発足させました。隙間の存在を子どもだけでなく保護者にも知ってもらい、楽しく学んでもらうために、「スキマモリ」というキャラクターを活用した普及啓発を行っています。

当局も6年度から当該プロジェクトに参加しており、駅での啓発ポスターの掲出や乗車口のホームドアへのステッカー貼付を行いました。また、市営地下鉄沿線に所在する市立保育園へ赴き、駅係員による電車の乗り方や車内マナーに関する出前講座を行っています。



啓発ポスター



ホームドアステッカー



出前講座の様子